

診察近づくと知らせます

鳥大病院がアプリ

発開始
開開
自開
独運

鳥取大医学部付属病院（米子市西町）は7日、外来患者が待ち時間を有効活用できる患者呼び出しアプリ「とりりんりん」の運用を9月26日から全科で始めたと発表した。同病院が独自開発したアプリで、全国の大学病院でも珍しい取り組み。

同病院の外来患者の待ち時間は平均67分。「待ち時間が長い」という意見がかねて寄せられ、昨年6月から対策を検討してきた。開発したアプリは、スマートフォンで登録すれば病棟の半径500メートル以内から診察受け付けが可能。診察が近づくとメッセージと呼び出し音で通知され、待ち時間を院内の好きな場所ですることができる。初回のみ、同病院内の窓口で診察券の登録が必要になる。開発費は2千万円で、5

月下旬と9月下旬に4診療科で試験運用。登録者は1日約40人のペースで増え7日現在、1284人となっている。今後は検査の通知などの機能拡張を目指す。医療情報部の寺本圭副部長は「フードコートの呼び出しベルのような感覚で操作できる」と強調。原田省病院長は「待ち時間を有効に使っていただき、患者がくつろいで過ごせるような空間も整備していきたい」と話した。（渡部ちぐみ）



「とりりんりん」のテスト通知画面。呼び出しまでは病院内のカフェやギャラリーなどで自由に過ごせる。7日、米子市西町の鳥取大医学部付属病院